

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和2年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校長 林 素弘

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	林 素弘 伊丹 三郎, 西 直子
学力向上推進員	教諭(教務課長) 教諭(学部長)	福崎 久美 (小)久樹 磨美 (中)四宮 美和子 (高)伊井 敏
委員	指導教諭(研究課長) 教諭(人権進路課長) 教諭(教務主任)	山田 千代 福原 薫 (中)久米 清一 (高)豊田 尚子

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(全学部・全学年) 児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	一人ひとりが、興味関心があることや習得した動作等を使って意欲的に活動できる。重度重複障がいのある児童生徒については、保護者や関係機関等の支援を受けて健康に留意し活動することができている。	課 題	日常生活に必要な姿勢保持や基本的な動きについての習得や改善, 持続が必要である。また, 周囲の支援や援助を受けることが多く受け身になりやすいので, できる体験を増やし主体的に生活をしてほしい。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
身体や心の安定を図り, 教員の支援を受けて自分の身体や気持ちに向かい合いながら主体的に課題に取り組む。		重点をおいて取り組む課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で, 「十分達した」「達した」という評価を80%以上とする。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
1 一人ひとりの児童生徒の実態把握を行い, ケース会で今年度重点的に取り組む目標の設定, また評価を行い共通理解を図る。 2 それぞれの課題について, 専門家や自立活動担当者の助言を受けたり, 研修や訓練見学を行ったりして指導の改善に活かす。 * 中間期の見直し		① 12月の見直しケース会を含め, 年間3回ケース会を行う。 ② 年間を通し, 課題についての専門家や自立活動担当者の助言や研修等を2回以上受け, 指導を改善する。	